

柿 特報 No.4



H 2 8 . 6 . 3
J A 中野市営農センター
J A 中野市柿研究会

6月の梅雨の時期は、降雨による落葉病の感染拡大が心配されますので、薬剤散布は死角がないよう丁寧に実施しましょう。また、高温によるケムシ類の早期発生も見られますので、園地の状況をよく確認し殺虫剤の散布を徹底して下さい。

病虫害防除

隣接園（特に収穫期の作物）に飛散しないように注意してください

★★★ 重要なお知らせ ★★★

◆アメリカシロヒトリ（アメシロ）、ケムシ類の発生が見られる場合は、アディオン水和剤（収穫7日前、5回）の3,000倍（水100ℓに33g）を加用散布する。

*部分的な少発生の場合は、その部分を除去し園外で処分する。

◆昨年、カキノヘタムシガ（ヘタムシ）が発生した園地（収穫前落果の発生園）では、6月が初期発生となるため、今回の防除を徹底する。

6月上中旬（6月6～12日頃）の散布

散 布 薬 剤	水	1 0 0 ℓ	散布日 6月 日 散布量 ℓ
	展着剤	1 0 mℓ	
	オーソサイド水和剤 8 0	1 0 0 g（7日前、5回）	
	劇モスピラン顆粒水溶剤	2 5 g（収穫前日、3回） （劇・・・劇物。ご購入の際は印鑑をご持参下さい。）	
対象病虫害	落葉病、炭疽病、すす点病、アザミウマ類、カイガラムシ類、カキノヘタムシガ、カメムシ類		
散 布 量	1 0 a 当り 5 0 0 ℓ * 若木の場合、樹体にしっかり散布できる量を散布する		
注 意 事 項	* 昨年、落葉病が多発した園地は、必ず散布する。 * オーソサイド水和剤 8 0 に代えて、スコア顆粒水和剤の 3000 倍（前日、3 回）でもよい。		

●今後の管理について

- * 摘 果 ・ ・ ・ 生理落果が終わる6月中下旬～7月上旬から実施する。
花量が少ない場合は、樹全体で着果量を確保できるよう調整しましょう。
- * 雑草管理 ・ ・ ・ 主幹害虫対策として、根元は常にきれいにしておく。
- * 乾燥防止 ・ ・ ・ 敷き草や敷きワラを実施する。